

熊本大学主催「土木の日」記念行事の実施報告

1. 実施目的

平成 23 年度、熊本大学では「土木の日」の記念行事として、明神川周辺の住民を対象としたマイハザードマップ作成事業を行った。ここでは、宇城市の明神川周辺の住民に対し、マイハザードマップ作成を通じて、ダムや堤防などの土木施設の重要性を学んでもらう。マイハザードマップは、浸水想定区域図や洪水ハザードマップをベースに、住民自らの手で地域固有の情報を追加し、地域の防災に関する情報を記載した地図である。危険な場所や避難経路を、皆で話し合いながら地図に書き込むなかで、災害リスクの現状を学び、地域の協力体制が構築されることが期待される。また、そうした地図の作成を通じて、ダムや堤防などの土木施設の果たす役割について学び、土木の重要性の認知を促すことができる。



図：宇城市明神川周辺の位置

2. 実施内容

(1) 自治会役員に対する説明会

日時：平成 23 年 12 月 20 日(木) 午後 7 時～9 時

場所：宇城市役所新館 1 階第 5 会議室

内容：宇城市明神川周辺に位置する曲野南、10 区、南 11 区、大野、久具の各自治会の役員に、マイハザードマップ作成事業の趣旨説明と、今後の協力をお願いした。質疑応答では、なぜこの地域を対象としたのか、マンションやアパートに住む新しい住民が参加しなければ意味がない、などの質問、意見が寄せられた。最初の質問に対しては、この地域は浸水被害が多いため選んだとのこと宇城市から説明された。また、後者の要望については、数多くの幅広い住民に参加してもらうため、案内のチラシを市の広報誌に併せて回覧するなどの努力をすることを約束した。



写真：明神川周辺マイハザードマップ事業の趣旨説明

(2) 住民説明会（第1回WS）

日時：平成24年1月26日(木) 午後7時～9時

場所：宇城市役所新館1階第3会議室

参加人数：21名

内容：熊本県から明神川の整備の状況，宇城市から災害時対応の体制，熊本大学からマイハザードマップ作成の目的と手順についての説明があった。その後，住民から多くの質問，意見がよせられた。最後に，次回の「防災まちあるき」のための班分けが行われた。



写真：熊本県による明神川の現状についての説明



写真：宇城市による洪水時の対応についての説明



写真：熊本大学によるマイハザードマップの説明



写真：防災まち歩きのための班分けの様子

(3) 防災まちあるき (第2回WS)

日時：平成24年2月26日(日) 午前9時～11時半

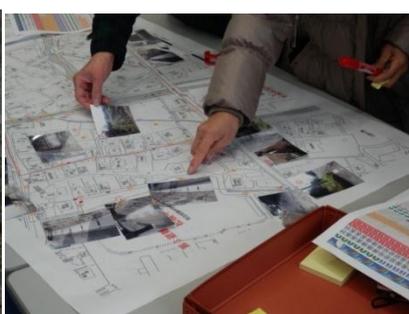
場所：宇城市役所新館1階第3会議室

参加人数：21名

内容：熊本大学から、「防災まちあるき」についての簡単な説明を行ったあと、参加住民は第1班(南11区, 10区), 第2班(大野), 第3班(久具, 曲野南)の3班に分かれて、それぞれの地域を歩いて危険な個所を見て回った。そのなかで、蓋のない水路や、水のたまりやすい窪地など、避難する際に危険な場所の状況をメモしたり、写真を撮ったりした。また、過去の水害の状況を話し合ったりすることで、地域の水害リスクを共有することができた。これらのメモや写真、話し合いの結果を、次回のマイハザードマップ作成のワークショップまで忘れないように地図の上で整理した。



写真：防災まちあるきの様子



写真：危険なところを地図に記録，整理している様子

(4) マイハザードマップ作成と発表会 (第3回WS)

日時：平成24年3月11日(日) 午前10時～11時

場所：宇城市役所新館1階第3会議室

参加人数：12名

内容：前回の「防災まちあるき」の写真，メモ等を地図上に整理し，避難経路を記入することでマイハザードマップを作成した。その作業においては，参加者の話がどんどん弾んで盛り上がっていく様

子が見られた。避難経路を考えていくなかで、河川が越流するほどの大雨のときはどうするか、夜のときはどうするかなど、普段はなかなか思い至らない状況での避難について議論されていた。最後、仮完成したマイハザードマップを、各班が15分程度で発表した。そうすることで広域での水害の危険の様子について参加者みんなで共有できた。今後は、このマイハザードマップを避難訓練で使う予定である。その結果、今回のマイハザードマップで不足していたことをさらに加えていく予定である。



写真：マイハザードマップ作成と発表会の様子